

伝統引き継ぐ牛供養田植 比和中生が練習の成果を披露

REPORT 4



▲練習の成果を發揮

4年に1度行われる比和の伝統行事「比和牛供養田植」が5月27日、比和町森脇で行われ、市内外から多くの見学者が訪れました。

牛供養田植は、「農宝」として家族同然に大切にされた牛を供養し、豊穰を祈願するために行われていた比和地域の伝統的な田植行事です。昭和46年には、広島県の無形民俗文化財に指定され、比和地域の宝として代々伝承されています。

この行事には比和中学校の生徒34人が、大太鼓、小太鼓、早乙女、サゲとして参加。5月11日の初練習から、比和町郷土芸能振興会の皆さんの指導のもと、日々練習を重ねてきました。



▲練習を重ねた比和中生徒たち

習を重ねてきました。

本番当日は、サゲのうたう調子に合わせて、迫力ある舞を披露。早乙女役の生徒もぴったりと息を合わせ苗を植えていきました。「素敵な体験ができて幸せ」と話していた生徒たちは、練習の成果を發揮し、歴史と伝統を見事に引き継ぎました。



▲リズムよく苗を植える早乙女

特産りんごを目で味わう 高野でりんごの花のお花見会

REPORT 5



▲参加者からの質問に答える長曾さん(左から2人目)

高野の特産品であるりんごの花が満開を迎えた5月6日、フルーツファーム東舎(ひがしや)で「りんごの花のお花見会」が開催されました。

これは、りんごの果実だけではなく、春に咲く真っ白な美しい花の魅力も知ってもらいたいと町内の有志が企画

しました。

当日は、市内や三次市から約10人が集まり、散策や花見を楽しんだほか、りんごの花や樹木について、園主の長曾守人さんの説明に耳を傾けました。

参加者からは「学校では習えないことを教えてもらえた」「秋にまた来てみたい」と喜びの声が聞かれました。

長曾さんは「今は摘花(てっか)を行う忙しい時期だが、花にあふれた高野の魅力を発信する絶好の季節。四季折々の高野町を訪ねてもらうことで、高野町と高野産りんごのファンを増やし、地域の活性化にも役立てれば」と話していました。



▲見ごろを迎えたりんごの花

ツーリズムで地元産物の魅力づくり 道後山高原トマト倶楽部発足

REPORT 1



▲トマトの苗を定植する参加者

西城町三坂地区のトマト生産者有志が中心となり発足した「道後山高原トマト倶楽部」が5月20日、そのスタートとなるイベント「定植祭」を開催しました。

道後山高原に位置する三坂地区は、少量多品目で上質な高原野菜が生産されており、樹上完熟して出荷される道後山高原トマトは、その味と美しさが知られつつあります。

同倶楽部は、植付け、手入れ、収穫、調理などの体験を通して、生産者と消費者が交流し共に学ぶなかで、道後山高原トマトの魅力を磨き、地元の情報を発信していくと取り組んでいます。

定植祭では、保育園児を含む13人の参加者が、生産者の説明を聞きながらトマトの苗を定植し、山菜など地元食材を使った昼食、西城産のトマトを使ったアイスクリームや焼き菓子を囲んでティータイムを楽しみました。同倶楽部では今後、トマトの芽かきなどの作業やトマトケチャップづくりが体験できる盛夏祭、トマト料理の食卓を囲む収穫祭も予定しており、随時会員を募集しています。同倶楽部に関する問い合わせは、西城町観光協会(☎0824-82-2727)まで。

自然の学び舎「釜峰山」 口南小が森林教室を開催

REPORT 2



▲釜峰山の森林を学ぶ児童

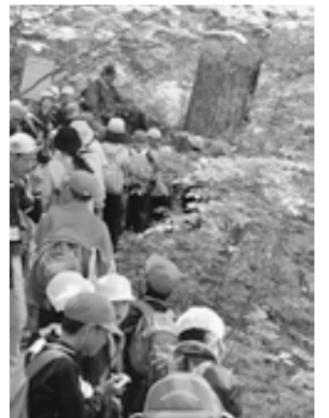
口和町湯木にある釜峰山森林浴公園で5月9日、森林教室が開催されました。

当日は、広島北部森林管理署、びほく・森のサポーターズの方が、釜峰山の国有林や動植物、森の保水作用のことなどを紙芝居やクイズを使って説明。参加した口南小学校の児童59人は、森林の大切さを楽しく学びました。

その後、釜峰山展望台を目指しながら林内を散策。道

中は、樹齢120年のアベマキを見学したり、さまざまな樹木を学んだりしながら、約1時間かけて元気に登りきりました。

最後に児童会長の元田吉貴くん(6年生)が「展望台までみんな一生懸命登り、鳥の声やいろいろな森林の話が聞けたのでとても楽しかったです」とお礼を述べました。



▲樹齢約120年のアベマキを見学

地元産にこだわり今年も営業します! 比和の特産市場

REPORT 3

比和町木屋原の「比和の特産市場」が4月22日、本年度の営業を開始しました。

当日は、オープンを待ちわびていた多くの人々が訪れました。朝8時の開店前には列ができ初め、開店と同時に店内は活気で包まれました。

店頭には春の山菜や採れたての新鮮野菜、地元産の食材を利用した加工品などが並び、ヨモギをつかった杵つきもちの実演販売やお汁粉の無料サービスも行われました。

比和の特産市場は地元生産物にこだわり、毎週土・日

曜日の午前7時から正午まで(1~3月は休業)営業しています。(関連記事28ページ)



▲店内の様子

もっと気軽に立ち寄れる場所に 総領木屋で「夜桜の会」

 **REPORT 6**

総領町の木屋自治会で4月21日、「夜桜の会」が開催されました。

木屋地域では公園整備を行い、植栽したただれ桜などが年間を通して多くの人に楽しまれています。その一環として、夜桜を楽しんでもらおうと桜をライトアップしました。

この日集まったのは約60人。ライトアップ前に、かわいらしい子ども神楽と迫力ある総領饗心太鼓の演奏を楽しむと、外が暗くなりいよいよ桜がライトアップ。あいにくの雨となりましたが、夕闇に桜が照らされ幻想的な景色



▲総領饗心太鼓の演奏



▲ライトアップされたただれ桜

が浮かび上がりました。集まった人の多くがカメラを片手にその風景を楽しんでいました。

木屋自治会の小島由佳利会長は「ごちんまりとしていて、誰でも気軽に来ていただける場所になるよう整備してきた。これからも安らげる場所として守っていきたい。ぜひ皆さん立ち寄ってほしい」と話していました。

恒例の龍船登場に歓声沸く 帝釈峡湖水開き

 **REPORT 7**


▲龍船が登場

新緑に彩られた4月29日、「第45回帝釈峡湖水開き」が神龍湖で行われました。

帝釈峡の安全と繁栄を祈願する神事が行われた後、「トレイルセンターしんりゅう湖」前広場では、地元鬼神太鼓の太鼓演奏や子ども神楽の演舞などのステージショーを見ながら、神石高原マルシェのテント広場で軽



▲多くの観光客でにぎわう

食を楽しむ観光客でにぎわいました。

また湖面では、紅白の煙を吐きながら龍をかたどった龍船が登場するアトラクションも行われました。

春の透き通る青空の下、訪れた約2千人の観光客は、石灰岩が織り成す帝釈峡の雄大な自然景観やイベントを満喫していました。